

「衆議院選挙制度に関する調査会」（第12回）議事概要

1 日 時 : 平成27年9月30日(水) 14:00 ~

2 場 所 : 衆議院議長公邸

3 出席者 :

座長	佐々木 毅	明るい選挙推進協会会長、元東京大学総長
	荒木 毅	富良野商工会議所会頭
	岩崎美紀子	筑波大学教授
	大石 眞	京都大学教授
	大竹 邦実	地域社会ライフプラン協会理事長、元衆議院調査室長
	加藤 淳子	東京大学教授
	櫻井 敬子	学習院大学教授
	佐藤 祐文	横浜市会議員、前横浜市会議長
	曾根 泰教	慶應義塾大学教授
	並木 泰宗	日本労働組合総連合会政治局局長
	堀籠 幸男	慶應義塾大学特別招聘教授、元最高裁判事
	山田 孝男	毎日新聞社特別編集委員
	林 幹雄	衆議院議院運営委員会委員長

## 4 議事要旨

(1) 現行制度を含めた選挙制度の評価及び定数削減の問題について、委員間で討議を行った。

(各委員からの主な発言)

- ・ 当調査会の設置から現在までの変化として、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられた。選挙制度のあり方については、若い人も選挙に関心を持ち始めていることもあり、現行制度を含めた選挙制度を幅広く議論し、若い人が読んで興味を持つ答申を目指すことが必要である。
- ・ 衆議院の選挙制度については、政党の立場を重んじるのではなく、国民が衆議院議員に対して何を求めているかということを中心に考えるべきである。
- ・ 現行制度の問題点として表面的、現象的なものをフォローする必要はなく、現行制度を導入した趣旨や時代背景をきちんと考証し、選挙制度以外の関連部分も含めた問題点を検討し、現行制度を維持する上での評価と課題を明確にすべきである。
- ・ 国民主権のもとで、政党が示す公約を見て国民はどの党に入れるかということ判断して投票するのであるから、このような政党の性格と、その政党が選挙公約で示した定数削減の処理について、有識者としてどのように答えを出していくかということが重要である。
- ・ 定数削減をするのであれば合理的な理由が必要であり、それを人口減少

に求めることはできるが、人口減少をビルトインするわけではなく、今回の定数削減に関しては（人口減少が）最も合理的な理由であると考えればよいのではないか。

- ・ 身を切ることが国民との約束であるとすれば、定数削減ではなく、例えばコスト削減など他の方法もある。
- ・ 議席数はその時々、政治的情勢や社会的情勢で決まり、日本も300からスタートして以来変動してきており、また、世界各国でもばらばらであり、必ずしも人口とリンクしているわけではないので、人口を基準にすることは難しいのではないか。もし削減するのであれば、過去の我が国の実績などを踏まえて議員数を検討すればよいのではないか。
- ・ どの程度の国会議員数で国会がきちんと機能するか、選挙の形で国民の声を吸い上げるのに国会議員1人当たり人口はどの程度が適正かということを経験した上で定数削減を考えるべきである。
- ・ 国民に、小選挙区の議席配分において、一票の較差是正と定数削減は矛盾する目標であることを有識者の立場から明確に提示する必要がある。
- ・ 議会をきちんと機能させ、また、国民の権利である選ぶ権利をきちんと担保するためには、定数削減という身を切る改革の議論はこれを最後に止めないと、今後また（同じような問題が）起こることが懸念される。
- ・ 議院内閣制のもとでの行政府との対抗関係上、あまり議会の方が減ることは好ましくない。有為な人材を集めるためにはある程度幅を持って人数がいた方がよいので、議会と行政府の関係を考えることも重要である。

- ・ 小選挙区制の弊害の問題を少しでも是正するという意味でいうと、小選挙区の方を少し調整していった方が適切な民意の反映ということに寄与するのではないか。
- ・ 拘束名簿で選ばれながら選挙後に離党や新党設立があったり、有権者にとっては一番候補者が選べない拘束名簿式という投票方法であったり、重複立候補制度など、比例代表への国民の不信がある。選挙区の安定性を重視するためにも、比例代表の定数を削減すべきである。
- ・ 民意の集約機能が行き過ぎているとはいうものの、選挙制度に変更があったわけではなく、選挙の結果としてのものである。そういうことが起こり得る制度だということは最初からわかっていたことである。
- ・ 過去の選挙を見ると、揺れが大きくて与党側に議席が行き過ぎてしまっても、比例代表における復活当選によって野党が一定数存在する。与党と野党がいないと政治は成り立たないので、並立制において比例代表がある程度のバッファ機能を持っていることも考慮すべきである。
- ・ 現在の選挙結果を見ると、振幅が激しくなり、小選挙区の持つ力が非常に発揮されて第1党が多数の議席を占める状況になっている。そういう中で、定数削減を考える場合は、小選挙区で削減すべきである。
- ・ 定数は、何よりも議会在議決める話であり、そのためにどのような結論を導き出すかが難しいところである。

## (2) 次回の日程

平成27年10月19日（月） 16時